

「新型コロナウイルス感染症に係る実態調査」結果概要（簡易版）

1. 調査の目的

- ①新型コロナウイルス感染症に係る看護職の現状、及び季節性インフルエンザの流行期を見据えた今後に向けての準備等に関する意見・要望を把握する。
- ②それをもとに、本会の今後の活動に反映し、関係機関等への要望につなげていく。

2. 調査概要

- 1) 調査方法：郵送による調査
- 2) 回答方法：①Googleフォームを利用したWEB回答、②FAXによる回答
- 3) 調査期間：令和2年11月16日～30日
- 4) 対象：岡山県看護協会会員施設の、病院・訪問看護ステーション、介護福祉施設等
- 5) 回収状況

送付数	288 件
回答数	169 件
回収率	58.7 %

3. 回答者の属性

全体に占める回答数が多かったのは、病院103件（60.9%）、訪問看護ステーション34件（20.1%）、介護福祉施設等32件（18.9%）であった。（図1）

病院の回答数が多かったのは、100～199床40件（38.8%）、99床以下39件（37.9%）、200～299床12件（11.7%）、300床以上12件（11.7%）であった。（表1）

また、病院の回答数で新型コロナウイルス感染症患者受け入れ協力医療機関（以下感染症対応病院と記載）は27件（26.2%）、それ以外の病院（以下対応無と記載）76件（73.8%）であった。（表1）

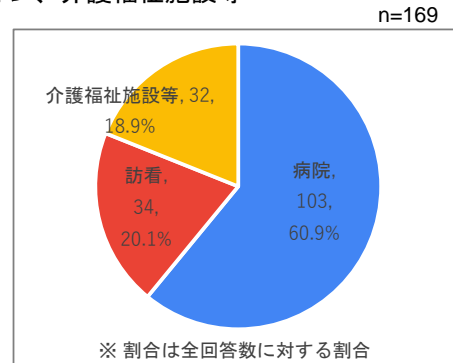


図1 回答施設の内訳

表1 病院の感染症対応別・病床数

病院病床数	99以下	100～199	200～299	300以上	計
回答数	39	40	12	12	103
(%)	37.9%	38.8%	11.7%	11.7%	100.0%
感染症対応有病院	4	13	2	8	27
(%)	14.8%	48.1%	7.4%	29.6%	100.0%
感染症対応無病院	35	27	10	4	76
(%)	46.1%	35.5%	13.2%	5.3%	100.0%

4. コロナ禍で、困っていることについて

コロナ禍で「困っている」ことがあると回答したのは、全体で142件（84.0%）、「困っていない」のは27件（16.0%）であった。病院では、「困っている」のは91件（88.3%）、「困っていない」のは12件（11.7%）であった。病院病床別では、「困っていない」のは、99床以下8件（7.8%）、100～199床2件（1.9%）、200～299床、300床以上各1件であった。また、感染症対応病院では、27件全てが「困っている」であった。

困っていると回答した具体的な内容としては、病院では、感染防止のための面会等の患者対応、院内で感染症が発生した場合の対策・体制、物品等の不足、職員の不安・メンタルヘルス等であった。

訪問看護ステーションでは、利用者、家族への感染対策、他のサービスとの対応の差による困惑、メンタルヘルス等であった。

介護福祉施設等では、患者対応による人員不足、看護職不足、医療的判断を迫られる、感染対策・対応の不安等であった。

5. 要望、意見等について

要望等については、コロナに関する情報発信をリアルタイムに発信、情報の集約をして欲しい、感染管理認定看護師等派遣してもらい専門家の指導を受けたい、感染拡大における職員の派遣、オンラインの研修等の要望であった。

今後の新型コロナウイルス感染症の拡大に備えて、会員施設の実態調査を行った。困っていることは、感染防止のための面会等の患者対応、利用者、家族への感染対策、職員のメンタルヘルス、介護福祉施設等での看護職の不足、医学的判断を迫られる感染対策、新型コロナウイルス感染症等の情報発信等だった。日々困っている具体的な内容等を把握し、本会で改善できること、また現状及び困っている内容を広く行政、関係機関等に伝える情報発信や行政へ要望等をしていくことで実態調査を活かしていきたい。